

TORIDDE

止石

五城目消防広報誌

Vol.17

- 01 夏を楽しむために
正しい火気の手扱いと水の事故を防ぐために
- 02 熱中症の予防と対策

VOL.17 2025.7 五城目町消防本部 消防広報誌

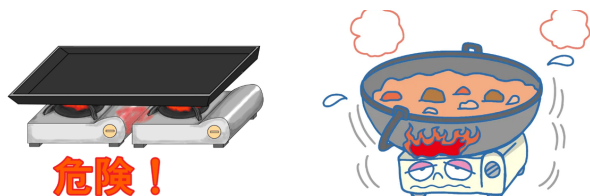
この夏を楽しむために 正しい遊び方を学び、 この夏の最高の思い出を作ろう！



夏といえば、海や山でのレジャーの季節。バーベキューや花火など、火を使うことも少なくありません。カセットこんろや着火剤、ガスライターなどの製品は、使い方を誤ると大きな事故につながる場合があります。製品を正しく使い、安全に楽しく過ごしましょう。

1 カセットボンベの爆発事故

調理によく使われるカセットこんろ。このカセットこんろに装着したカセットボンベが加熱され、爆発する事故が発生しています。このような事故は夏に多く、一度に大人数が火傷を負った例もあります。中でも多いのが、カセットこんろを2台並べて、上に大きい鍋や鉄板をのせる使い方です。このような使い方をするとカセットボンベが熱せられ、爆発する危険性があります。



2 着火剤つき足しは厳禁

火起こしの際には、だれでも簡単に火を起こしやすくするための補助材料として着火剤がよく用いられます。

この着火剤を、火が弱くなってきたからといって、つき足すことは非常に危険です。突然火が大きくなったり、火が飛び散ったりしたことで、火傷をした事故が報告されています。着火剤で点火するときは十分な距離を取り、つき足しは絶対にしないでください。



3 花火遊びには必ず大人が付き添って、 浴衣姿は火に注意

花火には必ず大人が付き添い、火の危険性を教え、着火用のライターは子どもの手の届かないところで管理し、子どもだけで遊ばせないようにしましょう。

また、燃えやすいもののない広い場所で行う、水の入ったバケツを用意するなど、注意表示を必ず守りましょう。

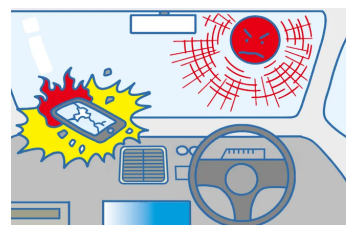
浴衣は綿素材のものが多く、火がつくと一気に燃え上がります。火を使うときは十分な注意が必要です。



4 ガスライターやスプレー缶の放置は危険

ガスライターやスプレー缶を車内など、直射日光の当たるところや高温になる場所に放置しないようにしましょう。放置することで、発火や火災の危険があります。

また、ガスライターやスプレー缶だけでなく、リチウムイオン電池などを含む電子機器（スマートフォンなど）でも過熱による火災事故が発生しています。車を離れる際には、車内にガス機器だけでなく、電子機器等を放置しないようにしましょう。



水の事故を防ぐために！ 海や川でレジャーを楽しむために知っておきたい安全対策



水の事故防止 水の事故から命を守る7つのポイント

1 「立入禁止」の場所には近づかない

海や川など水辺には、パッと見ただけでは分からない危険が潜んでいます。管理者や地元の方などによって柵が設置されていたり、「立入禁止」などの看板がある場所には、絶対に近づかないようにしましょう。



2 体調が悪いときは無理をしない

体調が悪いときに水に入るのは危険です。自身の体調を把握して、疲労や睡眠不足を感じる場合などは、決して無理をしないようにしましょう。



3 単独行動を避ける

一人で行動した場合、事故に遭っても発見が遅れて、深刻な事故につながるおそれがあります。複数人での行動を心掛けましょう。



4 子どもから目を離さない

子どもは大人と比べて危険を察知する力が弱いものです。小さな波にも足をすくわれ、沖に流されたり、溺れたりすることもあります。子どもの体に合ったライフジャケットを着用させるとともに、常に子どもから目を離さないようにしましょう。



5 お酒を飲んだら海や川に入らない

お酒を飲むと判断力や注意力、集中力、さらには運動能力も低下するため、自身が危険に遭遇するリスクが高まり、大変危険です。お酒を飲んだあとは海や川に入らないようにしましょう。



6 ライフジャケットの常時着用

水の事故で生死を分ける重要な要素となるのが、ライフジャケットの着用です。これを徹底するだけで、重大事故発生の確率を大きく下げることができます。



7 連絡手段の確保

水の事故が起きた時に、消防署などに速やかに通報できるよう、携帯電話などの連絡手段を確保しておきましょう。水没して使えないといった事態を防ぐため、ストラップ付防水パックの利用をおすすめします。



熱中症を予防しよう！

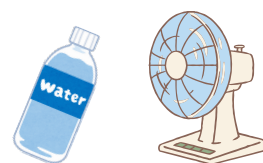
熱中症とは、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調節機能が低下したりして、体温の上昇、めまい、けいれん、頭痛など様々な症状を引き起こす状態をいいます。

熱中症は誰にでも起こり得る病気でもあります。適切な予防対策を取ることで未然に防げる病気でもあります。適切な対策を取り健康で楽しい夏を過ごしましょう。

また、気温が高くなることにより健康被害が生ずる恐れのある場合に「熱中症警戒アラート」が発表されます。発表中は熱中症予防行動を実施するとともに、特に注意が必要な子ども、高齢者への見守りや声かけなども行いましょう。

熱中症対策

- エアコンや扇風機を使用し、涼しい環境で過ごしましょう。
- 屋外で作業する場合には、日陰などでこまめな休憩、水分補給を心がけましょう。
- 朝食をしっかりとるなどバランスのよい食事を心がけましょう。



応急手当

- 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め安静に寝かせましょう。
- エアコン等で体を冷やしましょう。
- 首、脇の下、太ももの付け根など太い血管のある部分を冷やしましょう。
- 飲めるようなら水分を摂取させましょう。



子どもを車内に残さないで

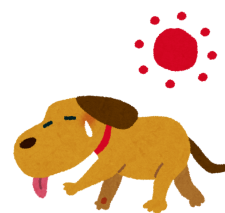
子どもは、体に熱がこもりやすく、体温調節機能が未発達のため、数分車内に取り残された場合でも、熱中症になる危険性があります。子どもを車内に残したまま車を離れることは絶対にやめましょう。



ペットの熱中症にもご注意ください

室内では、エアコンを使用したり、風通しを良くしたりして、室内が暑くなりすぎないようにしましょう。

また外出する際は、気温が高い時間を避けるなど工夫をしましょう。夕方になり涼しく感じられても、道路の表面温度は下がっておらず、地面の近くを歩くペットは高温にさらされます。路面の温度にも注意しましょう。



ー 編集後記 ー

はじめまして。春の人事異動で編集委員長を務めることになりました館岡と申します。7月に入り、いよいよ本格的な夏の訪れを感じる季節となりました。今号の特集では、「夏」を安心して楽しんでいただくため火気の取扱いや水の事故防止などについてお届けしました。私たち消防職員一同、日々の現場活動はもちろん、こうした広報誌を通じて“身近な消防”として親しんでいただけるよう努めてまいります。

最後に、これから暑さが厳しくなりますので、熱中症など体調管理には十分お気をつけてください。次号もどうぞお楽しみに。（館岡雅志）

